

しばぞの ふえすた  
芝園にぎわいフェスタ

しばぞのだんちじちかんやくいん おかざきひろき  
芝園団地自治会役員 岡崎広樹

みなさんは、川口市に外国人住民が多く居住する団地があることを  
ご存知でしょうか。ここは、蕨駅から徒歩8分。蕨市との市境にある芝園  
団地です。芝園団地の入居者数は約5千人。その内、約2千人以上が外国人  
住民です。その多くが中国人です。日本で最も有名な団地の一つ  
です。

その芝園団地では、2014年10月、11月の合計4日間、アジア国際  
交流イベント“芝園にぎわいフェスタ！”を開催しました。イベントの  
テーマは、地域住民の『コミュニケーション』です。

外国人住民が年々増加していく中、日本人住民と外国人住民の交流は  
全くない状況でした。顔の見えない近隣住民は、お互いに不満の積もる  
関係になりやすいものです。芝園団地商店会では、地域住民同士が顔の見  
える関係を育むこと、また、商店会に足を運んでもらい地域の活性化を図  
ること、という2つの目的でイベントを開催しました。

イベントでは、舞台とブースを用意しました。舞台では、芝園団地の  
中国人住民の子どもたちによるコーラスもありました。子どもたちが一生懸命に歌ったり踊ったりする姿に  
国境はありません。子どもたちの無邪気で楽しい歌声の響きは、芝園団地の高齢者の方々に無限大の元気を与えて  
くれました。

ブースでは、芝園団地自治会による折り紙教室や餅つきなど、日本の伝統文化が紹介されました。一方で、  
中国人住民の方々は、家庭の味ワントンや中国の伝統的な遊びを紹介しました。食や遊びに国境はありませ  
ん。これらを通じた交流は、お互いの心の距離をグッと縮めることを実感しました。

また、王子国際語学院に通うベトナム人留学生からは、伝統食“フォー”やベトナムの故郷を想う歌、恋の歌  
も披露されました。芝園にぎわいフェスタは、小さいながら日・中・越の多文化交流の機会にもなりました。

そして、イベントのテーマ『コミュニケーション』の仕上げは、キャンドルナイトです。これらのキャンドル  
は、地域住民による手作りです。このカップにはメッセージを書いてもらい、イベント終了後、キャンドルを持  
ち帰れるようにしました。これらのメッセージは、地域住民同士の『コミュニケーション』の証なのです。

様々な背景を持った人々が、地域住民として共に暮らすことはきれいごとだけではありません。文化や生活  
習慣の違いから、多くの問題が起きています。しかし、この日本において、同じ時代に同じ時間を同じ場所で  
共有しているのも事実です。

このキャンドルは、お互いを尊重しながら暮らしていきたい、という想いを込めた祈りの灯なのです。この  
様子はYoutubeの『芝園にぎわいフェスタ』で見ることができます。

最後に、芝園団地商店会平井副会長のお礼と閉会の挨拶を紹介します。

『芝園はすばらしいまちです。芝園は外国人にもやさしいまちです。そし  
て、芝園はみんなの“ふるさと”です。これからも地域が一体となって、こ  
の芝園を盛り上げていけたらいいと思います。』

そう、芝園団地がここに住む全ての人たちの心のふるさとになることを  
祈って。

